

1 複数の東京DMAT出場時の活動原則

○ 複数の東京DMAT出場時の活動原則は、「東京DMAT運営要綱」及び「都内大規模地震災害時発生時活動要領」に規定

- （内容）・同一の災害現場において複数の東京DMATが活動する場合は、原則として**最先着した東京DMATが、現場指揮本部長に対して医学的見地からの助言を行う。**
- ・同一の活動場所において複数の東京DMATが活動する場合は、原則としてその活動場所に**最先着した東京DMATが、その現場責任者に対して医学的見地からの助言を行うとともに、後着した東京DMATとの連携に務める。**

○ 具体的な活動イメージについては、参考資料7「複数の東京DMATが出場した事案における活動原則」（H24年度第1回東京DMAT運営協議会資料）のとおりで、**チームの構成人員全員が一体的に活動することを原則**としている。

- （内容）・現場指揮本部長の指揮を受けて現場へ向かった最先着東京DMATは、後続隊が現場へ到着した後、**チームとして一体的に現場指揮本部へ向かい、現場指揮本部長に対して「応援DMATの必要性」と「後続DMATの必要性」等の助言を行う。**

2 新たな研修内容を検討する過程で生じた提案

○ 現在、東京DMATインストラクターを対象とした新たな研修として、「災害現場における複数の東京DMAT間の連携等に必要な教育」の内容を検討中であるが、その過程において、次のような提案がなされている。

（提案内容）

- ・ **最先着東京DMATは指揮本部（救急指揮所）と救護所の2手に分かれる。**
（＝これまでの活動原則とは異なる運用）
- ・ 指揮本部（救急指揮所）には医師と調整員が、他の看護師2名は連携隊2名とともに救護所へ入る。

（理由）

- 1 DMATは救護所活動がメインで、救護所内の傷病者の数・状況・治療スペース・レイアウトの確認を行う必要がある。
- 2 救護所に入った最先着DMATは後続隊が入ってきたら、指揮本部（救急指揮所）と救護所の連携の役割を担い、傷病者の搬出優先順位をつける必要がある。
- 3 指揮本部（救急指揮所）と救護所はそれほど離れていない。

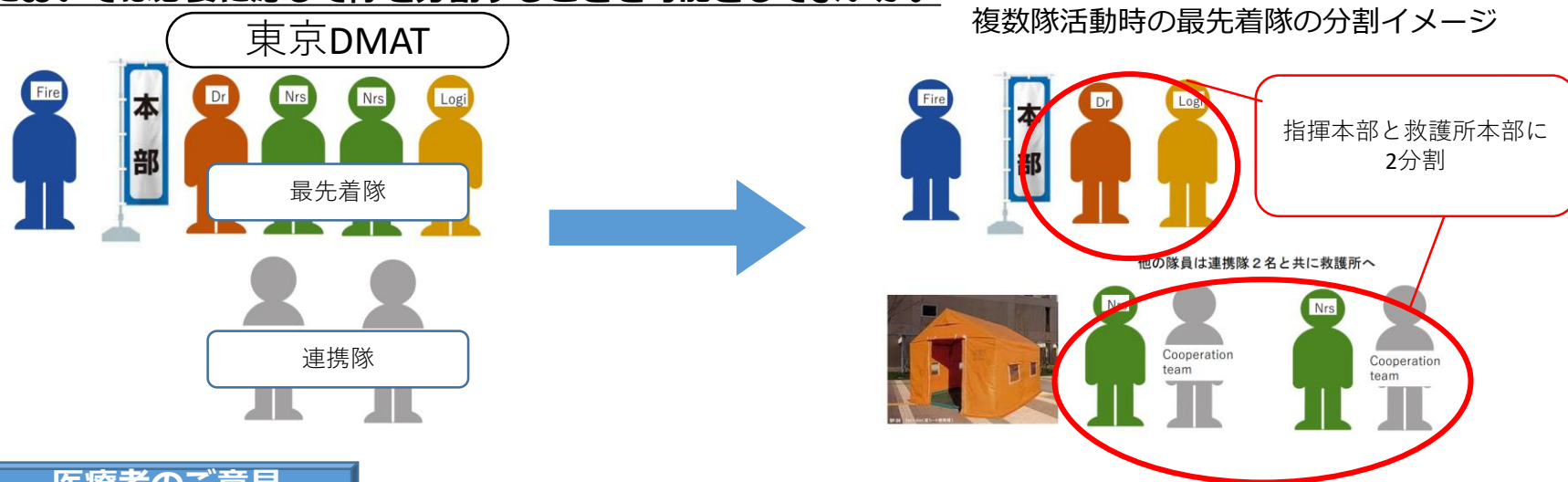


3 企画・調整小委員会における議論

- 東京DMATの最先着隊が二手に分かれて活動することは、東京DMAT及び連携隊の活動原則を変更することとなるため、東京DMATの医療者視点での意見として、下記論点についてご審議いただいた。

論点

東京DMATは1チーム当たり医師1名、看護師等2名の計3名を基準にして編成され、チーム・連携隊ともに一体的に活動するというこれまでの活動原則を変更し、**多数傷病者事案で複数の東京DMATが出場する場合においては必要に応じて隊を分割することを可能としてよいか。**



医療者のご意見

東京DMATは隊員の安全管理上、原則、一隊で動くことは変わらず、最終的には指揮本部長の指示に従うが、オプションとして隊を分割して運用することがあっていいのではないかと。東京消防庁と協議してほしい。

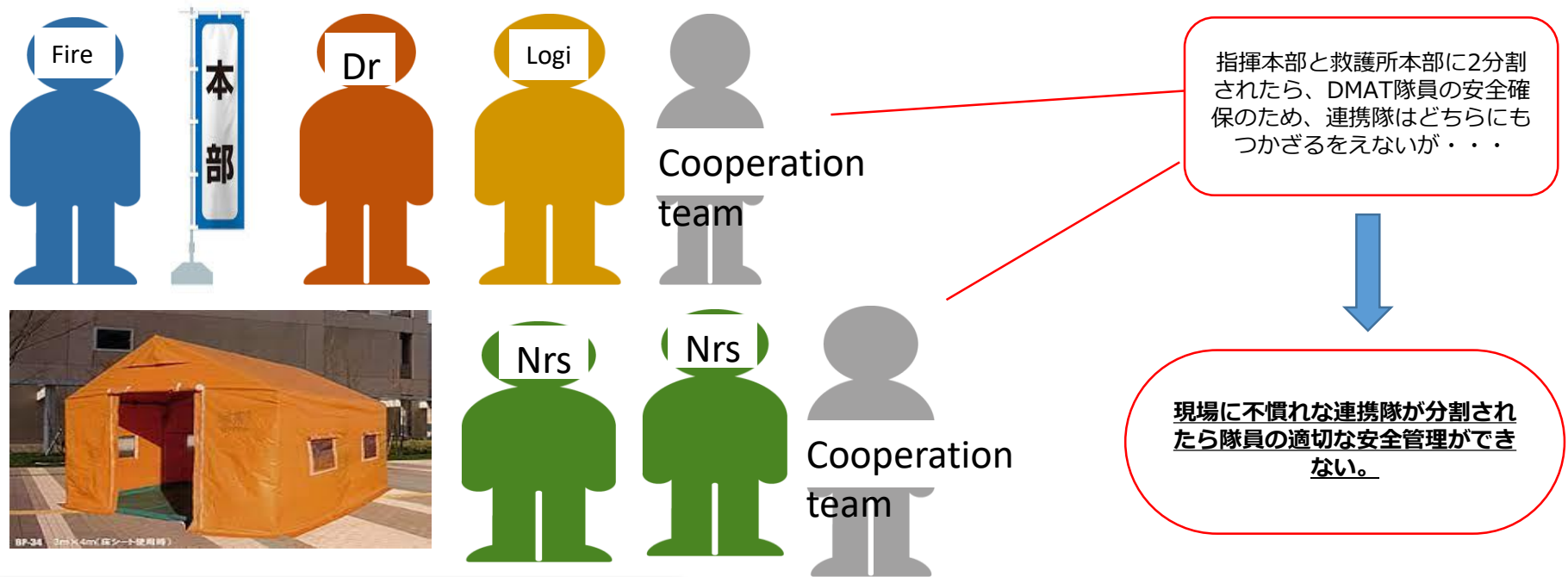
東京消防庁のご意見

東京DMATの分割に伴って連携隊が分かれてしまうと適切な安全管理はできないと考えられる。

4 東京消防庁との協議

東京消防庁のご意見

- 企画・調整小委員会の場合でも申し上げたとおり、DMATを分割するとなるとDMATの安全管理を行うDMAT連携隊も分割することになる。東京消防庁としてそのような活動は想定していない。
- たとえば、追加の教育を行ったとしてもDMAT隊の安全を確保するのは難しいと考える。



5 新たな研修の提案内容の取扱いについて

- 連携隊によるDMAT隊員の安全確保ができないなら、隊を分割しての活動は難しい。
- そのため、活動原則はこれまでどおりとし、東京DMATインストラクター向けの研修においてもDMAT隊の分割をしない研修を行う。